

# Ⅱ-2

## 考える力を育てる指導

### 先生、こう考えるといいと思う！

#### ● 思考力の働いている子どもを具体的な姿で描く。

○ その単元、あるいは本時の学習で、どのような思考ができればよいのか、目指す子ども像を具体的に描いてみましょう

みんなの考えつかないことが  
ひらめく子どももって、思考力  
があるよね。

たくさん発言する子は  
思考力があると言えらわ。

足の数や体のつくりに着目して生き物を比較し、昆虫とそうでない生き物を見分けられる子どもにしたい。  
(小3・理科)

・ 目指す子ども像を明確にすることで、必要な指導が見えてきます。

#### ● 考えたくなる課題を設定する。

○ 考えたくなる課題や考える必要感のある課題を子どもが見つけられるように、考えるきっかけとなる教材を提示したり、それまでの学習を振り返らせたりします

お米の生産量は毎年増えているのに、どうして作業時間は減っているのだろう。

Aさんの作品は、いろいろな形が組み合わさっていて面白い。私も形を工夫して作品を作りたい。

- ・ 既存の知識や経験とのずれを明確にしたり、ゴールへの憧れをもたせたりしましょう。
- ・ 少し困難な課題（「がんばればできそう！」）が、解決への意欲を誘います。

#### ● 課題解決の手掛かりに気付かせる。

##### ① 「考える視点」

国際問題を考える時には、自分の国だけじゃなくて、相手の国の立場からも考えるといいんだな。



##### ② 「考える手順」

表の変わり方のきまりを見付ける時には、小さい場合から順々に調べるといいよ。



正方形の数 (個)	1	2	3	4
ぼうの数 (本)	4	7	10	13

## 子どもが考える場面を十分に確保する。

### ○ 子どもたちが考える時間の確保

- ・ 教師は、発問の後、矢継ぎ早に言葉を発していませんか？考える間を大切にしましょう。
- ・ 5分の説明よりも1分の沈黙で自分の意見をもつ時間を確保しましょう。
- ・ 思考力を育むには、「子どもたちが発言する時間 > 教師の話す時間」を目指しましょう。

### ○ 話し合う場の確保

- ・ 「話し合う目的」と「課題解決の手掛かり（視点や手順など）」がはっきり共有されると、話し合いが活性化します。

大造じいさんが、なぜ銃を下ろしてしまったのかということについて話し合ってたね。

行動が変わった原因は、その直前の文を見ると手掛かりがあるかもしれないよ。



大造じいさんは、はやぶさの前に残雪が現れたのを見て銃を下ろしているよ。それなら…。

## 課題解決の過程を振り返る。

### ○ どんな考え方が役に立ったのかを振り返り、それを自覚させる機会を大切にしましょう

途中で困ったけれども、黒板にあるAさんの考え方がとてもよいヒントになった。



大事な考え方は、ノートにも書いておこう。

別の物語を読む時にも、この考え方が使えそうだね。

## 思考が進みにくい子どものためにひと工夫する。



どのように考えたらいいのか分からない…。

学習している内容だけでなく、課題解決の手掛かり（視点や手順など）や既習事項、友達の発言などを黒板に書いておきましょう。



ぼくは、給食場の調理員さんの、衛生面の工夫がたくさん分かりました。

例えば？

…。例えば、肉を炒めている途中で温度計を使って…。



子どもたちの発言が行き詰まったとき、「例えば？」「つまり？」「だから？」「そのわけは？」などの適切な接続詞を入れ、思考を促しましょう。

### ワンポイント！

**聞くことから始まる** —「聞き手は聞いて育ち、話し手は聞いてもらって育つ。」（芦田恵之助）—

友達は何かいいことを言いそうだという相手への敬意。友達の発言を聞いてみたいという気持ち。大事なことはうなすいたり、視線をしっかりと返したりしながら聞くという姿勢。受容的な雰囲気の中で言葉は生まれます。「話すこと」を支える「聞くこと」を大切に。「聞くこと」の指導から始めてみませんか。